

蒼雲



「コミュニケーション」について考える

校長 岡 秀 樹

このたび、第三十七代校長を拝命しました、岡秀樹です。どうぞよろしくお願いいたします。地域の皆さまには、平素から本校教育活動に格別のご理解・ご配慮をいただいております、心より感謝申し上げます。

さて、社会人に求められる能力として一般的によく言われるのが「コミュニケーション能力」であるということをご存じの方も多と思います。さまざまな統計資料が公表されていますが、ここ十年以上の長きにわたって求められる能力の筆頭として認知されていることは間違いなさそうです。

ただ、その一方で「コミュニケーション能力」がそもそもどんな力なのか、ということについての解釈にはさまざまな考え方があり、一概にどれが正解ということはいえません。とはいえ「もっとも求められる能力」であることは間違いない事実ですので、私はことあるごとに生徒に対して以下のような話をしてきました。

「コミュニケーション」って何だろう。おそらく「自分からどんどん話しかけて人間関係を作っていく力」というのが、多くの生徒の皆さんのイメージではないだろうか。要するに自分から積極的に「発信」していくイメー

ジだ。確かに、社会に出て人間関係が大事じゃないってことはあり得ない。だから、人間関係という部分は正解である。しかし、その関係性はどうかやって作るのか？ 実は社会に出ると様々な年代の人たちと関わりながら話を聞くような場面が結構ある。社交性や自己主張を発揮する場面よりもずっと多いというのが私の印象である。つまり、聞く方のコミュニケーションが主体となる

のだから、「コミュニケーション」とは「発信」よりもむしろ「受信」が大事ということになる。相手のことをきちんと受け入れよう、大切にしようと思わないと、しっかりとした「受信」にはならない。この気持ちこそが「コミュニケーション」の本質だと私は考えている。自分は引っ込み思案だ、口下手でコミュニケーションが低い、などと不安に思っている人もいると思うが、同世代で構成されている学校と、さまざまな年代の人が混在する社会では状況は全く異なる。「受信」する気持ちさえ持っていれば十分に人間関係は作れる。安心しなさい。

まあ、だいたいこんな流れです。さて、この春は島根県の教育にとって大きな節目となりました。というのも、「島

根創生計画」が第2期に入り、これに伴って「島根県教育大綱」「しまね教育振興ビジョン」「県立高校魅力力化ビジョン」といった大きな教育施策も軒並み新たなプランの段階に入ったからです。そして、これらの施策のすべてを象徴する言葉が「誰もが、誰かの、たからもの」というキーワードです。小学生にも十分理解できる平易な表現になっていますが、込められた意味は大変深いものがあります。

この言葉は「お互いの個性や多様性を認め合い、励まし合い、支え合いながら、子どもたち自身が、『自分が誰かのたからもの』であり、『誰もが自分のたからもの』であると思えるような教育を展開します」というように説明されています。

このキーワードは人と人のかかわり方、つまりコミュニケーションのあり方を示すと同時に、現在の学校教育においてコミュニケーションがいかに大切なものであるかということも伝えていることになりました。

今年度も探究学習などで本校生徒が地域の皆さまのもとにお邪魔することがあると思います。至らぬ点多いでしょうが、皆さまの思いをしっかりと受け止める「受信マインド」だけはきちんと身につけて出掛けていくように指導します。良いコミュニケーションがはかれますよう、ご理解・ご協力のほど、どうかよろしくお願いたします。

1年生 産業社会 と人間



1年 産業社会と人間 年間スケジュール

| 日付 | 曜日 | 時間 | 内容 |
|--------|----|----|--------------------|
| 4月17日 | 木 | 2 | 産社オリエンテーション |
| 4月24日 | 木 | 6 | フレッシューズ セミナー・マナー講座 |
| 5月1日 | 木 | 2 | 図書館からはじまる「学び」のガイド1 |
| 5月8日 | 木 | 2 | 図書館からはじまる「学び」のガイド2 |
| 5月15日 | 木 | 2 | 話し合いの授業 |
| 5月22日 | 木 | 2 | 学び方の特徴を知る |
| 6月12日 | 木 | 2 | 職業探究1 |
| 6月19日 | 木 | 2 | 職業探究2 |
| 7月10日 | 木 | 2 | キャリアデザインプログラム① |
| 7月17日 | 木 | 2 | ジョブスタディ |
| 8月21日 | 木 | 2 | 産業の発展と社会の変化1 |
| 8月28日 | 木 | 2 | 産業の発展と社会の変化2 |
| 9月11日 | 木 | 2 | キャリアデザインプログラム② |
| 9月18日 | 木 | 2 | 学問探究1 |
| 10月2日 | 木 | 2 | 学問探究2 |
| 10月9日 | 木 | 2 | ライフプラン1 |
| 10月16日 | 木 | 2 | ライフプラン2 |
| 11月6日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ1 |
| 11月13日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ2 |
| 11月20日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ3 |
| 12月4日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ4 |
| 12月11日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ5 |
| 12月18日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ6 |
| 1月8日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ7 |
| 1月15日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ8 |
| 1月29日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ9 |
| 2月5日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ10 |
| 2月12日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ発表準備 |
| 2月26日 | 木 | 2 | 未来創造探究Ⅰ発表準備 |
| 3月12日 | 木 | 3 | 未来創造探究Ⅰクラス発表 |
| 3月19日 | 木 | 1 | 1年間のまとめ |

三刀屋高校では、総合学科高校の原則履修科目である「産業社会と人間」を1年次に履修しています。この科目は本校キャリア教育の礎となる科目であり、生徒たちはこの学習の中で、社会における自己の在り方生き方について考え、体験的な学習や調査・研究などを通して勤労観・職業観を育み、我が国の産業の発展や社会の変化について、また自己の将来の生き方や進路について、考察を重ねていきます。

今年度の授業計画については別表の通りです。主なものについてご紹介します。



4月 フレッシューズ セミナー

今年度は4月24日（木）に実施しました。まず一人一台端末を配付して、その利用に関する研修を行いました。この中で、端末（Chromebook）は、3年間授業や探究活動等で使用するものであり、ゲームなどの不適切な使用はしないこと、毎日持ち帰って学習に活用するとともにきちんと充電して置くことなど、守るべきルールがあること

と学びました。ご家庭でもご留意ください。また、「マナー講座」として、社会に出るにあたっての心構えや、人と接する際の表情や態度、言葉遣いなど、さまざまなお話や演習を交えた講座を受講しました。今後、校外の方にお話を伺ったり、ご協力いただいたりして学びを深める機会が増えていきます。そういった機会に失礼のないよう、今回の講座で得た知識を活用してほしいと思います。

5月 「話し合いの授業」 「学び方の特徴を知る」

いずれも島根大学の先生を招いて実施します。授業や探究活動で、協働的な学びに取り組む際に必要なスキルや、個々異なる学び方の特性などを学んで、これからの学習に生かしていきます。

7・9月 「キャリアアデザイン プログラム」

大学や専門学校等から講師を招いて希望進路別にお話を伺ったり、また島根大学に向向いて学部別にプログラムに参加したりして、自身の進路について考えを深めます。

7月 「ジョブスタディ」

県内各企業等から20名ほどの職業人の方を講師として招き、その職業に関するお話を伺ったり、体験をさせてもらったりして職業観を育みます。生徒にとっては、興味のある職業だけでなく、これまでなじみのなかった職業についても知る機会となり、見識を広げていきます。



8月 「産業の発展と 社会の変化」

例年、県内企業の方を招いて、先端科学技術を用いた自社の取組について体験を交えたお話をしていたいただきます。今年度は、「DXハイスクール」で配備された機器を使ってワークショップ形式の活動などを行い、社会の発展や変化について学んでいく予定です。



10月 「ライフプラン」

例年、明治安田生命から講師を招いて、「お金の観点から人生計画を考える機会を設けています。長期的な視点で人生を考え、自らが進む道を見つめる時間となります。



11~3月 「未来創造探究」

2年次から本格的に始まる探究学習に向けて、データサイエンスの視点に基づき統計処理や問いの立て方などを学び、探究の基礎となるスキルを身につけていきます。



1年生は「産業社会と人間」以外にも、「総合的な探究の時間」で「雲南式探究」に取り組みます。この中で地元の良さを再発見したり、地域の中にある自分の在り方生き方について考えたりして、自己理解・地域理解を深めていきます。三刀屋高校では、これらの学習プログラムにより、2年次の探究学習の充実を目指していきます。



入学式

4月9日(水)「令和7年度第78回入学式」を挙行了しました。県内14校、県外5校の計19校の中学校を卒業した130名の新入生を迎えました。

入学許可の後、校長から勉強、部活動、探究、この3つを柱として努力して欲しいなどの話がありました。その後、新入生代表の宣誓では、新しい生活に不安を抱きながらも、三刀屋高校生として新しい仲間と勉強や部活動に励み、互いに高めあっていきたいという決意が述べられました。入退場や校歌では、吹奏楽部の演奏も行われ、華やかな式となりました。また、多くの来賓や保護者、在校生の同席により、緊張感の中にも新入生を温かく歓迎する雰囲気のある入学式となりました。



教室が整備されました



三刀屋高校は、令和6年度に「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」と「総合的な探究の時間」の質向上を図るための実践研究」という2つの文部科学省事業の指定を受け、取組を進めてきました。前者は情報・数学等の教育を重視するカリキュラムを実施し、かつICTを活用した探究的な学びを強化するために必要な環境整備を行う事業であり、後者は「総合的な探究の時間」の取組を工夫して生徒に主体的に社会参加する意欲・態度を育成することをねらった事業です。本校では、従来から探究学習に力を入れてきました。この事業の指定を受け、いっそう探究学習を推進していきます。

このうち、「DXハイスクール」では、さまざまな機器を配備し、生徒の主体的な学びを進める拠点としての教室整備が求められており、本校では旧「L教室」を新たに「DXルーム」として整備しました。この教室では、ハイスペックパソコンのほか、3Dプリンターやドローン、レーザーカッター、ゲームトプリンター、VRゴーグル、ハイスピードカメラなどの機器が配備されており、探究学習のほか、各教科の学習等で活用していきます。

また、三刀屋高校一〇〇周年記念事業として、総合学科棟の旧「小講義室5・6」が「探究ルーム」として整備されました。ここでは、教科学習や探究学習において生徒が協働的な学びを進められるよう、キャスター式の机・椅子やホワイトボード、さらに遠隔機材が配備されました。これらの教室を拠点として、探究的な学びをさらに進化させていきます。

探究
ルーム



DX
ルーム

